

家庭基礎

| | | | | | | | |
|-------|--|----|------|-----|---|-------|-------|
| 教科 | 家庭科 | 科目 | 家庭基礎 | 単位数 | 2 | 学科・学年 | 全科 1年 |
| 使用教科書 | 家庭基礎 ～自立・共生・創造～ (東京書籍) | | | | | | |
| 副教材等 | <ul style="list-style-type: none"> ・担当教員が配布するプリント ・知っておきたい食べ物の話 (教育図書) | | | | | | |

「家庭基礎」はどんな科目？

私たちは、家族や社会との関わりの中で大きくなり、やがて自立した大人へと成長していきます。価値観の多様化、家族や社会をめぐるさまざまな問題がある中で、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成していくため、家庭基礎の学習では、人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な知識、それらに係る技能を身につけることを目指します。

「家庭基礎」の授業の特徴は？

1. 家庭生活に関する様々な知識や技術を身につけ、自分自身の生活設計を考えたり、乳幼児や高齢者の生活、生活を取り巻く環境・福祉などについて理解したり、子どもや高齢者など高校生にとっての異世代から学ぶことで、すべての人とよりよく共生していくことを考えます。
2. 人間生活を支える「衣食住」を、家族の健康・安全・快適さの視点でとらえ、身近にできる実践・実習・実験を通して基礎的基本的な知識と技術が身につくように広く学びます。
3. 家庭の経済生活を理解しながら、現代の消費生活の課題について認識し、消費者としての自立を目指しそのための意思決定の大切さや消費行動が環境に与える影響を考え、環境に配慮したライフスタイルが築けるようにします。

「家庭基礎」で大切なこと(留意点)は？

1. 家庭基礎の学習では、自分自身がいろいろな教科や学問の中に散在している生活に役立つ知識・技術・考えに常に目をむけ生活の知恵とし、自分自身の生活へとつなげていくことが大切です。
2. 授業や実習は皆さん自身が主役です。自分の意見をしっかり持ち、仲間の意見には耳を傾け、真面目に主体的に取り組みましょう。発展的学習にも積極的に挑戦し取り組みましょう。
3. 一生をどう生きるか、よりよく生きるためにはどんなことが必要か、将来への展望を常に意識しながら家庭科の学習に取り組んでいきましょう。

1. 学習の計画 (どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む。)

| | 月 | 学 習 内 容 (単元名) | 学 習 の ね ら い |
|-------------|---|---|--|
| 1 学 期 | 4 | 「家庭基礎」を学ぶにあたって ホームプロジェクトの取り組みについて | <ul style="list-style-type: none"> ・ホームプロジェクトの実施を通じ、家族と一緒に「弁当」作りに挑戦する。 ・青年期の課題は何か、自立のために、どのように取り組むか、これからの生き方について展望を持つ。 ・衣生活を見つめ直し、学校の制服の着こなし、適切な被服選択、被服管理のできる能力を身につける。 ・被服実習を通じ基礎縫い、および被服の基本的技術を身につける。 ・人の一生を生涯発達の視点でとらえ、男女が協力して家族の一員としての役割を果たすことの意義を考える。 ・家族に関する法律、福祉との関わりを理解する。 ・保育に関する学習を通して、子どもを生み育てることの意義、親の役割と責任について理解する。 |
| | 5 | 1 自分らしい人生をつくる① ・青年期の課題 | |
| | 6 | 2 衣生活をつくる ・被服の役割を考える ・被服を入手する ・被服を管理する ・これからの衣生活 被服実習 基礎縫い・ウォッシュブルメッシュケースの製作 | |
| | 7 | 3 自分らしい人生をつくる② ・家族・家庭を見つめる ・これからの家庭生活と社会 | |
| | 8 | 4 子どもと共に育つ ・こどもの育つ力を知る ・親として共に育つ | |

| | | | |
|-------------|----|--|---|
| 2 学 期 | 9 | <ul style="list-style-type: none"> 子どもとの触れ合いから学ぶ これからの保育環境 | <ul style="list-style-type: none"> 保育に関する実験・実習をする。 将来親として、地域の一員としてこらからのよりよい保育環境について考える。 |
| | 10 | 5 高齢社会を生きる・共に生き共に支える <ul style="list-style-type: none"> 高齢期を理解する 高齢者の心身の特徴 これからの高齢社会 社会保障 | <ul style="list-style-type: none"> 高齢化が進む現状において高齢者の身体・精神的特徴や生活支援、福祉制度について学び、豊かに年を重ねるために大切なことは何かを考える。 |
| | 11 | <p style="text-align: right;">〈期末考査〉</p> | |
| | 12 | 6 食生活をつくる（調理実習の実施） <ul style="list-style-type: none"> 食生活の課題について考える 食事と栄養・食品 食生活の安全と衛生 生涯の健康を見通した食事計画 調理の基礎（調理実習） これからの食生活 | <ul style="list-style-type: none"> 自分の食生活を振り返り、正しい食生活の重要性を理解する。 栄養所要量や食品群別摂取量の目安を、日常の食事と関連づけ理解する。 身近な食品表示や食品添加物などから環境保全や安全性を考えた食品選択や購入を考える 調理の基本的技術を身に著つけ、調理に関心を持つ。 |
| 3 学 期 | 1 | 7 住生活をつくる <ul style="list-style-type: none"> 住生活について考える 住生活の計画と選択 これからの住生活 | <ul style="list-style-type: none"> 住居の機能と快適な生活の条件を理解する。 近年起こった大災害の教訓を生かし、家族構成やライフステージに応じた安全で快適な住空間を考察する。 |
| | 2 | | |
| | 3 | 8 経済生活を営む <ul style="list-style-type: none"> 職業生活を設計する 計画的に使う 国民経済国際経済と家庭の経済生活 現代の消費社会 消費者の権利と責任 これからの消費生活と環境 | <ul style="list-style-type: none"> 消費者をめぐる問題を理解し、適切な対応を知る。 ライフステージ全体を見通し、お金を適切に管理できる力、成人年齢引き下げにともないより合理的な判断ができる力を身につけ、持続可能な社会を形成していく一員として、意識的な経済生活を営めるようにする。 |
| | 9 | 9 生活を設計する <p style="text-align: right;">〈学年末考査〉</p> | <ul style="list-style-type: none"> 家庭科で学んだ学習を振り返り、生涯を見通した自分の生活設計を考える。 |

2. 評価の観点・方法（及び年間の評定）

評価は、次の4つの観点から行います。

| | |
|----------|---|
| 関心・意欲・態度 | 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて関心を持ちその充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実生活に活かす態度を身につけている。 |
| 思考・判断・表現 | 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて自分の家庭生活に課題を見出し、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し、創造する能力を身につけている。 |
| 技能 | 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な技術を身につけている。また、それらの技術を発展させその成果を適切に表現できる。（主に衣・食生活） |
| 知識・理解 | 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識を総合的に身につけている。 |

このため、評価は、具体的には次のものを対象とします。

| 評 価 方 法 | |
|---|--|
| 年3回の定期考査 | |
| 被服製作等の実習作品状況（被服・保育の作品が提出できていること） | |
| 学習への参加状況（出席状況、授業中の取り組み（意欲態度）、実習への取り組み等） | |
| 授業で活用するプリントへの取り組み、提出状況 | |

また、1年間の評定は、1学期・2学期・3学期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。

3. 特に強調しておきたい点（留意すべき点・担当者からのメッセージを含む。）

- 家庭科学習においては、定期考査の他に、毎時間提出の学習プリント、実習記録、製作物、授業・実習態度などが重視されます。
- 家庭科で学んだ内容を、休日などを利用して家庭で実践し、成果や課題を考察することで、普段の生活に学習を生かしながら生活力をつけることができます。（食事作り、簡単な縫製など）自分や家族の生活の質を高めることに関心・意欲を持ち、そのために必要な力を確実に身につけ、普段から家庭生活に積極的に生かしていきましょう。

